

魚を科学する

水産研究発表会の御案内

静岡県水産技術研究所では、駿河湾など豊かな自然のもとに営まれている本県の漁業、養殖業、水産加工業等を振興するため、県内各地域に根ざした水産技術研究所及び分場において、様々な試験研究を行っています。

この研究成果について、一般の方々に理解いただけるようわかりやすく紹介しますので、皆様の参加をお待ちしています。

主	催	静岡県水産技術研究所
と	き	11月29日(金) 13時~16時(開場12時30分)
と	こ	ろ
発	表	内
参	加	費
申込み/問い合わせ		

裏面をご覧ください。

無料

①住所、②氏名、③電話番号、④職業を
FAX、ハガキ又はEメールで
下記まで御連絡ください。(先着100名様まで)

静岡県水産技術研究所 深層水科
〒425-0032 焼津市鰯ヶ島136-24 駿河湾深層水水産利用施設
FAX:054-629-1255 TEL:054-620-8911
Eメール:suigi-sinsousui@pref.shizuoka.lg.jp

水産研究発表会 参加申込書

氏名	
住所	
電話	
所属等	

*住所はどの地域の方が、所属等はどのような分野の方が参加されたかを知るための参考にさせていただきます。

発表内容の概要

① 駿河湾のタチウオの謎に迫る

資源海洋科 高木康次

銀色に輝く魚体のタチウオは、本県では駿河湾で多く漁獲されていますが、その生態の多くはこれまで謎に包まれていました。今回は、最近の研究で明らかになった駿河湾のタチウオの移動回遊等について紹介します。

② 新たな発想で効率的にかつお節を作る

開発加工科 鈴木進二

「かつお節」は、我が国が世界に誇る伝統的な調味素材です。近年の食生活の変化によってその使われ方も変化しています。しかしその製造法は今も昔からの方法が使われています。今回は、かつお節の効率的な製造法に関する研究について紹介します。

③ 生物の“多様性”に配慮した放流で豊かな海を

深層水科 中村永介

本県におけるマダイの放流は毎年約100万尾です。漁業や遊漁で獲られているうちの30%程度が放流によるものといわれています。より天然に近い「遺伝的多様性」に富んだ人工種苗を生産・放流していくための研究について紹介します。

④ “ガラモ場”今昔物語2 ～ガラモ場維持の試み～

伊豆分場 山田博一

ホンダワラ類が作る“ガラモ場”の衰退が、県内で見られています。その原因となっているウニを除去し、海藻の種を供給することで“ガラモ場”の回復がみられました。今回は回復したガラモ場を維持する方法について紹介します。

⑤ 放流もののクルマエビを探し出せ!!

浜名湖分場 霜村胤日人

浜名湖産クルマエビは、寿司や天麩羅のタネとして人気のある高級食材です。その資源を維持するために、種苗放流が行われています。漁獲量に占める放流エビの割合を遺伝子解析技術により調査していますので、その研究について紹介します。

⑥ アユが釣れれば静岡が儲かる!?

富士養鱒場 鈴木邦弘

静岡県の河川には全国各地から沢山のアユ遊漁者が訪れますが、彼らもたらす経済波及効果は明らかにされていませんでした。そこで、興津川で調査を行い、アユ釣りが地域経済に貢献することを確認すると共に、遊漁者を増やすために何が必要かを検討したのでご紹介します。